

優秀

私がこの夏に思ったこと

相模原中等教育学校 3年

土内つちうち

怜奈れいな

私は障がい者の方に対しての理解を広げていくべきだと考えている。

毎年24時間テレビが放送されている。今年はパラリンピックも開催された。それぞれで障がい者の方が活動していたりスポーツで活躍したりしているところを見られる。

どうしてこういう場が設けられているのかを考えた。そして、障がいについて考えるきっかけが少しでも増えるようにし、理解を深めるためだと思った。実際に私は、ハンディを背負いながらも一生懸命に生きる姿を見て、自分はどうなんだと見つめ直す機会になった。

次にパラリンピックや24時間テレビを見る人は、障がい者についてどんなことを感じるのだろうか。私は家族や友人に聞いてみた。ある人は「自分が知らなかったことをたくさん知ることができた。パラリンピックでは、オリンピックと変わらないほど白熱して、興味が湧いた。」と言っていた。これはとてもプラスな感じ方である。また別の人は、「障がい者を見て自分になくてよかったと思った。少しかわいそうな気持ちになった。」と言っていた。これには差別的な要素があり、マイナスな感じ方である。このマイナスな感じ方は決して「悪い」とは言い切れないが、共感はできない。

そこで私は、なぜこのような感じ方になるのかを考えてみた。

まず一つ目は、周りに障がいを持った人がいるという経験をしたことがないということ。このことによって、「他人事」という考え

になると考えた。

次に二つ目は、一つ目と関連して、全く知らない障がいへの無意識な警戒感が働いてしまうのではないかということ。これについては障がい者について知るまでに、私にもあったことだ。私は小さい頃保育園の先生に教えてもらうまで、かわいそうだな、と自分で遠ざけて思っていたことを覚えている。

ここまでの二点は、その人の環境による「偶然」が引き起こしてしまっている。

次に三つ目は、障がいという事柄への想像力が足りていないということ。この点に関しては、他の点と違って障がいについて認識しているにもかかわらず理解していない、本人の興味が影響している。

ここまでのことをふまえて、私には何ができるのか。それは、パラリンピックや24時間テレビなどで知れることを周りの人に伝えるということだと思う。私が保育園の先生に教えてもらって知って興味を持ったように、誰かが率先して知らない人に伝えれば、知識や理解が広まっていくと考えた。また、他の人に知識を伝えるには、自分をもっと詳しく知らなければいけない。だから、障がいや障がい者の方について勉強して、自分から伝えられるようになるうと思う。

最後に、世の中にはパラリンピックや24時間テレビの舞台に立てる障がい者の方もいるが、立てない方の方が多い。そういう方達まで理解が広がって、差別のようなことが起きないで幸せに暮らしてほしい。そのために私たちは理解し、伝えていくべきである。